

令和3年度野生鳥獣に関する感染症対策としての鳥獣保護管理方針検討会（第2回） 議事要旨

開催日時

令和3年2月2日（水） 14:00～16:00

開催形式

Web会議

委員（五十音順、敬称略。○は座長）：

岩丸 祥史	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門動物感染症研究領域 ウイルスグループ グループ長補佐
五箇 公一	国立研究開発法人国立環境研究所 生物多様性領域 生態リスク評価・対策研究室室長
橋本 渉	公益社団法人日本動物園水族館協会 感染症対策部長
○羽山 伸一	日本獣医生命科学大学獣医学部 教授
前田 健	国立感染症研究所獣医科学部 部長

オブザーバー

農林水産省消費・安全局動物衛生課、厚生労働省健康局結核感染症課

議事

- (1) スクリーニング・リスク評価について（中間報告）
- (2) モデル事業実施内容（案）について（中間報告）
- (3) その他

要旨

会議は非公開で行われた。

議事（1）スクリーニング・リスク評価について（中間報告）

スクリーニング対象疾病（案）及び生物多様性保全の観点からのリスク評価の結果自体に大きな問題は指摘されなかったことから、第3回会合に向けて対策優先度の評価をより洗練化させることとなった。

委員からは、地域や対象種の状況に応じて相対的な評価を追加的に行うことの有益性も提起された（羽山委員）ほか、新たなパラメーターとして鳥獣種の希少性、固有性に基づく重みづけを追加するなどして、生物多様性行政としての対策優先度という形でリスク評価の結果を示した方が良いとの助言があった（五箇委員、岩丸委員）。

環境省として協力すべき、公衆衛生や家畜衛生の観点から（も）リスクの高い感染症を抽出するために将来的に指標を追加する可能性も指摘された（羽山委員）。

議事（２）モデル事業実施内容（案）について（中間報告）

モデル事業候補の選定方針及び実施内容（案）についての異議等は表明されなかったことから、第３回会合に向けて地元のニーズも踏まえつつ更なる検討を進めることとなった。

委員よりは、イメージとして示されたモデル事業の実施内容（案）について、貢献し得る取組について紹介があったほか（橋本委員、五箇委員）、検体採材のための希少種の入手方法・入手可能性についての質問・説明があった（岩丸委員、羽山委員）。

議事（３）その他

事務局から中国および米国における取組・体制についての追加情報を共有したほか、委員に対し、リスク評価について気づいた点があれば連絡いただけるように依頼した。

以上